

ミュンスター市

(ミュンスター市の都市政策)

平成20年1月31日(木)

[面談者]

トーマス・ハウフ博士

(都市開発・都市管理部)

[通訳]

泊 知子氏



○説明者 ミュンスターによろこそいらっしやいました。

私は、ミュンスター大学の地学の教授もしております。戦略的な都市開発計画の担当です。暮らしやすさコンテストで受賞したミュンスターということで、持続可能なまちづくりというプロジェクトを推進しております。

きょう、紹介したいのは、どういうふうにミュンスターの都市が開発されていったのかということです。ミュンスターの姿をそのまま残していくということは、もちろん無理です。将来になると、また人口もふえて変わっていくので、これからの構造をどういうふうにしていくかという計画をするのが仕事です。ミュンスターの市のイメージとして、どのようなPRをしていくかというのが大切です。

堺市とミュンスター市は長い歴史があるまちで、ミュンスターも1,200年の歴史があり、共通点が多いと思います。ミュンスターにも大切な、重要な歴史があります。ミュンスターにとって自転車はとても大切であります。堺市にとってシマノの自転車の会社が大切なようにです。

ミュンスターにももちろん港があります。堺市の港は海の玄関口ですね。ミュンスターは内陸ですが、小さいながらも港がありまして、実は市役所の裏側にあるんですけども、後でまたごらんいただくと思いますけれども、それがミュンスターの都市開発の中でも大切な構造の一つです。

ミュンスターにはいろいろ長所がありまして、その長所を生かすには、ミュンスターのPRというのがとても重要になってきております。国際的に、国内的にPRということが大切になってきております。ミュンスターの長所としては、持続可能な都市開発、都市計画ということでありまして、その長い伝統を生かしながら開発していくという計画を立てておりまして、世界的にも注目を浴びております。

例えば、ミュンスターはドイツ国内での自転車にやさしいまちコンテストで2003年と2005年に優勝しております。その優勝受賞の賞金としまして、まちじゅうに幾つかのボックスがありまして、これは自転車をとめられる、内部にとめられる自転車の駐輪のボックスです。

1997年と2006年にミュンスターはまた地球温暖化防止を認められまして、環境首都として選ばれております。もともとは、ここ石炭の発電所だったんですけども、それを今は変えまして、そこの4つの煙突がありますが、ガスによる発電というふうになりまして、防止、CO₂削減に大きく影響を上げています。ですから、本当でしたら、石炭を使う発電所なので、石炭を運んでいた港というものは、だんだん衰耗していく運命にあったわけです。

2006年にヨーロッパエネルギー賞というのをいただきまして、金賞を受賞しました。ヨーロッパエネルギー賞の金賞を受賞したというのは、ドイツでは初めてということです。

一番ミュンスターが誇りに思っている賞というのは、先ほども言いました国連環境計画で

の賞で、暮らしやすさコンテスト受賞です。2004年、暮らしやすいコンテストに優勝しました。日本の幾つかの自治体もいろいろ応募したそうです。カテゴリーは5つありまして、最初、景観の改善ですね、ミュンスターの、例えばまちの景観改善ということが1つです。あと、環境にやさしい生活ということですね。もう一つの大切なカテゴリーとしては、市民の積極的な参加、あと子どもにやさしい環境ということがカテゴリーの1つです。

統合的な将来の計画ということで、それは科学的な、そういう研究です。

あと、もう一つのカテゴリーとしましては、歴史的遺産のプレゼンテーション、どのようにして歴史的な外観を保っていくかというようなプレゼンテーション、どういうふうにして世界に歴史の重要性を証明するかということです。

これは、ドイツのディ・ゼルトという新聞からの切り抜きでありまして、暮らしやすいコンテストで何と、ミュンスターはアメリカのシアトル、イギリスのコベントリーを抜きまして1位の賞をいただいたんですね。この受賞によりまして、ミュンスターは、世界的な注目を浴びることになりまして、現在、ミュンスターは世界各地からの視察団が来ています。ミュンスターも、そのPRとしまして、まちのあちこちに看板をしたり、宣伝をしたりして、ミュンスターがいかに住みやすいかということをどんだんアピールしております。それは経済的な効果もすごくあります。

もちろん、市民にとってもプライドというもの、まちに対する誇りというものが出てきます。それで、ミュンスターも暮らしやすさコンテストで優勝したというプライドによりまして、ますますミュンスターというまちをよくしていこうという責任感というものが生まれてきます。

しかしながら、この受賞したということによりまして、これからの開発というか、まちの構造を変えるということが少し難しくなってきております。私たちはまちの質というものと改善、開発ということを強く力入れて話し合いを続けていきます。

ミュンスターのまちにとって大切なテーマは、自転車にやさしいまち、地球温暖化防止対策、緑の多いまちというのが3つの大切な重要なポイントです。

今まで話した中で、質問がもしございましたらどうぞ。

○水谷議員 ガスの発電所は、LNG、天然ガスですか。

○説明者 そうです。天然ガスです。

○土師議員 アピールの仕方は、テレビを使ったりしてるんですか。

○説明者 最初はテレビを使ってのPRもしていたですけども、かなりお金がかかるということで、今現在は行っていないそうです。コスト的に見て、あんまり割が合わないということです。

テレビでの宣伝は、現在はミュンスター市からはしてないんですけども、暮らしやすさコンテストということで、注目を浴びたことによりまして、ドイツでとても人気のあるテレ

ビの探偵もののシリーズかあるんですね、そのタットオートというシリーズで、ミュンスターが何度も場所に選ばれて、ミュンスターのあちこちをテレビで見るということで、それが一番の宣伝効果、まちは一銭もお金を出さずに宣伝効果ができるということでミュンスターは喜んでおります。

もちろん、捜査官は自転車でミュンスターじゅうを走って、犯人を捕まえたり、探したりするというシーンで、ますますミュンスターは自転車のまちという宣伝効果は、もうドイツじゅうに広がっております。

でも、残念ながら、そういうシマノの、近代的な自転車ではなくて、もう古い、ぼろぼろの自転車を使って犯人を追いかけるといったシーンがたくさん撮られて、それが有名になっています。

○中井議員 いろいろな賞をいただくことによって、人口増というのは出てきておりますか。

○説明者 別に人口的にはそんなに変わっていないですけども、外国からのジャーナリストが10%から20%、前年より来るようになって、あと外国人ジャーナリストがレポートすることによりまして、外国の観光客が物すごくふえてきているということです。でも、人口的にはほとんど変わりはないです。

○西議員 メリットとして、一番最も挙げられるのは人口増じゃないとしたら、やはり観光客がふえたということが、この賞の最大の効果ということではないんですか。

○説明者 メリットとしては、イメージアップということで、ミュンスターで設立された会社、ミュンスターのお店ということで、結構、ブランドネーム化されたということです。ミュンスターがすごくいいまちだということを聞いているということで、イメージアップということが一番の、最大のメリットです。

○西議員 メイド・イン・ミュンスターみたいな。

○説明者 あと、ミュンスターの有名な児童文学書には、「野ウサギのフェリックス」というのがあるんです。それもとても有名になって、ますます売り上げも伸びてますし、あとスケートボード、ミュンスターはスケートボードのまちでも有名でありまして、スケートボードの会社もすごく利益を上げています。

ちょっと話がずれてしまったんですけど、例えば、現在のローマ法王はミュンスターで勉強されていたということで、70年代に自転車によく見かけたという話です。ローマ法王が、ミュンスターに住んでいたというのが、また宣伝ということです。

○西議員 もう1問だけ。PRの軸としてサスティナブルな都市計画を決めたというお話があったんですけども、サスティナブルな都市だから、それをブランディングのキーにしたのか、それとも、ブランディングのキーをサスティナブルと置いたから、そういったまちづくりを始めたのか、どちらでしょうか。つまり、もともと、サスティナブルだったから、それをPRのキーにしたのか、PRのキーをサスティナブルにしたから、まちづくりをそれに合

わせたのか。

○説明者 PRが持続可能な都市開発という、もちろんその賞をとったからというわけではなく、もともとローカルアジェンダ21からの始まった計画でありますので、賞をとったから、突然そういう持続可能なまちづくりというふうなことをしていったわけではないということです。

○土師議員 PRの組織というのは、ある特別な組織があるんでしょうか。

○説明者 ミュンスターの市役所には2つ部署がありまして、1つはもうPR専門というのと、もう一つはマーケティング、観光客ですね、ツーリストインフォメーションですが、PRと、ツーリストインフォメーションの2部署があるそうです。

皆さんが来られたのは、ミュンスターが暮らしやすさコンテストで受賞したということを知っていることですか。

○中井議員 それも、大きな理由ではあります。第二次世界大戦で、ドイツも日本も敗戦いたしました、そのときに古い建物を取り壊すのではなくて、保存をするという大前提の上にまちづくりが進められた、これはドイツの都市の中では希少なまちであります。それは今日にわたって、この自転車というものを主とし、自動車を排除するというか、そういうふうなまちで、それが今のやさしいまちになっているという、そういうことを事前に学習させてもらって、こちらの方に寄せてもらったんです。

○説明者 目的はそれが一番ですかの。

○中井議員 ミュンスターが自転車にやさしいまちとしているのは、戦後、1946年、1947年当時からずっと取り組んできた、その結果としてきょうのまちがあるんじゃないかなと、こういう理解で来たんです。

○説明者 その古い歴史的な建物を改修していったというのも、先ほど言いました暮らしやすさコンテストのまちのカテゴリーの1つであります。それが認められまして、受賞したということです。

○西議員 もちろん、この視察は環境問題に対する対応が1つの大きなテーマになっていて、その中で、日本では、ミュンスターよりもフライブルクの方が有名なわけです。けども、フライブルクは山合いのまちだから、ミュンスターの方が都市サイズとしても、もっとフラットなまちとしても、堺に近い構造がある程度あって、環境首都として表彰されてるように、環境施策がたくさん行われている、自転車政策も含めて行われているという意味でミュンスターを選らんだのです。

○説明者 そういうふうに比べてくれて、大変うれしく、光栄に思っております。ちょっと、ミュンスターの外観を地図で見てください。28万人の人が住んでいます。302平方キロメートルの広さでありまして、ノルトライン・ヴェストファーレン州では、ケルンの次に大きな面積です。

堺市はミュンスターの4倍の人口があるにもかかわらず、市域の面積は狭いですね。

ここは歴史的な遺産がたくさん残っている市の中心街です。旧市街と呼んでおります。

この市の外側には、昔城壁がありまして、まちを囲んでおります。その、もと城壁があった場所は、今、自転車のアウトバーンというふうになってまして、あと並木道が囲んでおります。緑でぐるっと囲まれております。もう一つ、並木道の外側にもまた一つの丸い緑色のサークルがあります。

3番目の囲んでる部分は、ほとんど緑色の緑地です。この緑色の部分は木々です。

もともとミュンスターというのは小さな村があちこちにありまして、それが1975年に統合されまして、ミュンスター市となったんです。

ここにまず1つの、緑の環状、リングがありまして、ここにまた2つ目の環状がありまして、3つの目の環状がありまして、ミュンスターを囲んでいるということです。

その旧市街、真ん中の、並木道の内側はまた自転車で移動しやすいように自転車道がたくさんつくられております。

ミュンスターというのは、3つのこの言葉で一番あらわすことができます。コンパクトで、都会でありながら緑が多い。都市であり、コンパクトであり、そうでありながら緑が多いということです。だから、大都市というわけではないんですけども、コンパクトな都市で緑が多い。

先ほど話しましたように、自転車のアウトバーン、プロムナードと言われている並木道です。その内側が旧市街で古い歴史的な建物が並んでいます。

緑色の、先ほど見ましたベルト状の緑色の木々が囲んでいます。

ここ大学の植物園があります。ミュンスターはとても緑の多いまちです。

ミュンスターの中心には、ドームというカトリック教会の大きなものが中心にあります。

あしたは駅前にある駐輪場をぜひ見ていただきたい。特別、ミュンスターということで、大きな駐輪場を建てました。

ミュンスターはいろんな、ドイツの国内のコンテストにいろいろ応募しております。例えば、文化都市、文化首都の2010年のにも応募しております、あとはすぐれた大学のあるまちというのと、科学の都市2006年というのにも応募しております、11のメトロポル地域というもののコンテストにも応募してるそうです。

ミュンスターは、その丸い小さい部分がミュンスターなんですけど、隣がルール工業地帯でドルトムントとかあるところなんですけれども、ほかの大きな都市と比べてミュンスターは、もうサイズのいっても、そういう比較ではとても勝てないんです。だから、それをどうやっていくかが今後の目標だということです。ですから、ミュンスターのローカル団体、市民たちと一緒にどういうふうにして持続可能な都市開発ができるかというのを話し続けております。ミュンスターの近辺にある小さな町々と協力して、何がミュンスターを特別にし

ていくかということをお話し合っています。そういう大都会と比較するのではなく、ミュンスターなりの開発ということを考えています。

ミュンスターに住んでいる74%の人はミュンスターに誇りを持っていて、ミュンスターというところに住んでいるということを楽しんでいるという人たちです。ドイツでは、93%の人がミュンスターというのを知っているということです。でも、まだドイツじゅうの中では、ミュンスターというものに対するイメージというのはまだはっきりはしていません。

例えばですね、皆さんも言いましたように、日本では環境のまちというと、フライブルクが先に行くとおっしゃってましたよね、でもミュンスターは、環境首都という賞をいただいて、フライブルクはそういう賞をもらってないんですけども。

○西議員 もらってるはずです。

○説明者 フライブルクの方は自然保護ということで評価されて、ミュンスターの方は地球温暖化防止対策ということで評価されたということで、違います。CO₂削減ですね。フライブルクの方は、自然の保護ということで注目されたということです。

ミュンスターに住んでる人に、まず1つ、ミュンスターといえば何をイメージしますかという質問をしました。イメージアップのために大切なのは、市民に対するミュンスターのイメージと、外部の人のミュンスターというイメージが一致するというのが大切なことです。

例えば、皆さんはミュンスターというのは自転車都市ということで来られてるわけですが、それと違って、ミュンスターじゅうに車が走っていたりすると、ちょっとイメージダウンということになるので、市民の協力が必要です。

ミュンスターというのを大体5つのイメージに皆さん見るそうです。この写真に載ってる分ですね。まず、ミュンスターは自転車のまちということです。あと、ミュンスターは大学のまちでありまして、ドイツで2番目に大きい大学があるということでも知られております。また、ミュンスターは緑の多いまちということです。さらには、ミュンスターはカトリック教の強い、教会の多いまちということでも知られております。

ミュンスターというのを、ドイツじゅうの、またミュンスターの人が考えると、プリンシパルマーケットという歴史的な外観が残ったショッピング街ですね、まちの中心にあるショッピング街のことを想像します。

残念ながら、真ん中に写っている、今のお買い物をする、古い建物なんですけれども、第二次世界大戦で80%から90%破壊されたということです。それでも、もともとのオリジナルの姿を再現するというので、改修が行われました。

ミュンスターの将来の計画に大切なのは、科学とライフスタイルです。ミュンスターのライフスタイルということですね。科学、そして、文化とかのライフスタイルですね。

ミュンスターというのにはレーベンスアートというのは、ライフスタイルなんですけど、ミュンスターでは、特別なライフスタイルがあるということが高く評価されたそうです。

上の写真は教育と科学ということで、一番左がミュンスター市の図書館で、真ん中はミュンスターの大学、右はピカソ美術館です。それがまた経済と作用します。

先ほども言いましたように、ミュンスターのライフスタイル、文化とまちのイメージ、文化としましては、たくさんの演劇が見られるシアターがたくさんミュンスターには存在しております。

ミュンスターには8つの大学がありまして、5万人の学生がおります。ミュンスターに夏休みに来られると、学生の方は大体自分の家に帰っております、5万人の人がいなくなるので、すごく違う雰囲気になります。

ドームという教会です。これはショッピング街です。そして外側の方にはミュンスターの技術、科学の建物がありまして、テクノロジーセンターや病院などがそろっております。大学病院、あと芸術大学、技術のセンターがそろっております。

その真ん中の写真は、ミュンスターの大学病院で5,000人から7,000人の方が働いています。ミュンスターというのは優秀な病院があるということでも知られております。科学パーク、科学公園、サイエンスパークというものがあまして、技術的な研究をする場所です。上の写真です。そのサイエンスセンターでは、デジタル画像の研究をしております、今度のオリンピックでは、そこのミュンスターの会社のデジタル画像が使われるそうです。これはもう本当に、オリンピックで採用されるということは幸運としか言いようがありません。下にありますのは、マックスプランクの医学研究所、医学の研究をするセンターです。外国からもたくさんのお医者さんが来られて研究に励んでおります。

ミュンスターのイメージアップとしては、もちろん教育というのも大切な1つです。教育に力を入れているというのがミュンスターのPRの1つです。

これは活気のある旧市街、ショッピングセンター街ですね、きょう皆さん、多分ごらんになると思います。旧市街というのは、たくさんの機能もあまして、まず商業、文化、教会、あとは仕事をされてる方ですね。ほかのまちとはまた違ったまちのイメージということですね。

ミュンスターの旧市街地で、いろいろなイベントで違うミュンスターの顔というものを紹介しています。ミュンスターには赤の広場と呼ばれている場所があります。赤の広場でのお祝いということで、すべて赤の風船、赤のカーペット、赤の照明ということで、赤の広場のお祭りをしました。

例えば、旧市街地をシアターとか、舞台として見るという考えで計画しております。

ミュンスターはビジネスのまちというスタンスなので、再現するということで、赤いカーペットを敷いて、またお祝いをしたということです。これは、ミュンスターはもともと商業のまちでもあったわけです。それを観光客またはほかの人に知らせるために、お祭りということで、ミュンスターはこういうビジネスがあるんですよというような紹介兼お祭りを開き